【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成21年10月1日(2009.10.1)

【公表番号】特表2007-506995(P2007-506995A)
【公表日】平成19年3月22日(2007.3.22)
【年通号数】公開・登録公報2007-011
【出願番号】特願2006-527288(P2006-527288)
【国際特許分類】
Ｇ０２Ｃ　7/06　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０２Ｃ　7/06

【誤訳訂正書】
【提出日】平成21年8月12日(2009.8.12)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
少なくとも１つのプログレッシブ表面を有するプログレッシブ眼鏡レンズの製造方法であって、該レンズは、
・遠距離を見るように構成され、遠距離基準点を有する遠距離視覚部分と、
・近距離を見るように構成され、近距離基準点を有する近距離視覚部分と、
・前記遠距離視覚部分と近距離視覚部分との間に配置されたプログレッシブゾーンとを有し、
レンズの作用は、アディションとして既知の値により基本ラインに沿って、遠距離基準点での値から近距離基準点の値へ上昇する形式のプログレッシブ眼鏡レンズの製造方法において、
プログレッシブレンズの［製造時における］計算および最適化工程は、ベクトル非点収差A→（以下、「A→」は
【数１】

$$\vec{A}$$

を表わすものである。）の回転の絶対値|rotA→|、拡散の絶対値|divA→|の双方又はその一方を最小化する工程を有し、
ベクトル非点収差A→の絶対値|A→|は、プログレッシブレンズの使用位置での非点収差の絶対値に比例するか、またはプログレッシブレンズの少なくとも１つのプログレッシブ表面の表面非点収差の絶対値に比例し、
ベクトル非点収差A→の方向は、プログレッシブレンズの使用位置での非点収差のシリンダ軸に比例するか、またはプログレッシブレンズの少なくとも１つのプログレッシブ表面の表面非点収差のシリンダ軸に比例することを特徴とする製造方法。
【請求項２】
計算および最適化工程は、ベクトル非点収差A→の拡散の一般的最大値|divA→|がレンズの良好な視力ゾーンの外に、有利にはレンズの周辺エリアに配置されるように実行し、該良好な視力ゾーンでは、ベクトル非点収差の絶対値|A→|が0.6dptより小さくなることを特徴とする請求項１記載の方法。
【請求項３】

計算および最適化工程は、ベクトル非点収差A→の拡散の絶対値|divA→|の一般的最大値の位置のx座標が6.0mmより大きく、y座標が-8.5mmより小さくなるように実行し、ここでxは使用位置での水平軸、yは垂直軸であり、ゼロ点x=0,y=0はレンズの中心点より4mm下にあることを特徴とする請求項１または２記載の方法。

【請求項４】

計算および最適化工程は、(0.1/mm)×アディションの値を越える、ベクトル非点収差A→の拡散の絶対値|divA→|のすべての極値が、アディション≧2.0dptであるすべてのプログレッシブ表面に対してレンズのy≧-9mmの領域の外となるように実行することを特徴とする請求項１から３までのいずれか１項記載の方法。

【請求項５】

計算および最適化工程は、ベクトル非点収差A→の回転の絶対値|rotA→|が、近距離視覚部分、遠距離視覚部分の双方またはその一方で、約0.25アディション/dpt・dpt/mmである|rotA→|maxを越えて上昇しないように実行することを特徴とする請求項１から４までのいずれか１項記載の方法。

【請求項６】

計算および最適化工程は、ベクトル非点収差A→の回転の絶対値|rotA→|がy=-14mmの水平区間で、約0.115アディション/dpt・dpt/mm、有利には約0.08アディション/dpt・dpt/mmである|rotA→|maxの絶対値を越えないように実行することを特徴とする請求項１から５までのいずれか１項記載の方法。

【請求項７】

計算および最適化工程は、ベクトル非点収差A→の回転の絶対値|rotA→|がy=+6mmの水平区間で、約0.115アディション/dpt・dpt/mm、有利には約0.06アディション/dpt・dpt/mmである|rotA→|maxの最大値を越えないように実行することを特徴とする請求項１から６までのいずれか１項記載の方法。

【請求項８】

計算および最適化工程は、y=3mmとy=5mmの間の遠距離視覚部分では、y=一定の少なくとも１つの水平区間が存在し、該水平区間に沿ってベクトル非点収差A→の回転の絶対値|rotA→|が基本ラインから|x|=16mmの座標の外側に向かって単調に上昇するように実行することを特徴とする請求項１から７までのいずれか１項記載の方法。

【請求項９】

計算および最適化工程は、ベクトル非点収差A→の拡散divA→がy=0mmの水平区間では、約(0.11アディション/dpt+0.03)dpt/mm、有利には約(0.08アディション/dpt+0.03)dpt/mmである(divA→)maxの最大値を越えて上昇しないように実行することを特徴とする請求項１から８までのいずれか１項記載の方法。

【請求項１０】

計算および最適化工程は、ベクトル非点収差A→の拡散divA→がy=0mmの水平区間で、約(-0.07アディション/dpt-0.11)dpt/mm、有利には約(-0.05アディション/dpt-0.08)dpt/mmである(divA→)minの最小値を下回らないように実行することを特徴とする請求項１から９までのいずれか１項記載の方法。

【請求項１１】

計算および最適化工程は、ベクトル非点収差A→の拡散divA→がy=-14mmの水平区間では、約(0.12アディション/dpt+0.06)dpt/mmである(divA→)maxの最大値を越えて上昇しないように実行することを特徴とする請求項１から１０までのいずれか１項記載の方法。

【請求項１２】

計算および最適化工程は、ベクトル非点収差A→の拡散divA→がy=-14mmの水平区間では、約(-0.13アディション/dpt-0.05)dpt/mmである(divA→)minの最小値を下回らないように実行することを特徴とする請求項１から１１までのいずれか１項記載の方法。

【請求項１３】

少なくとも１つのプログレッシブ表面を有するプログレッシブ眼鏡レンズであって、該レンズは少なくとも：

・遠距離を見るように構成され、遠距離基準点を有する遠距離視覚部分と、
・近距離を見るように構成され、近距離基準点を有する近距離視覚部分と、
・前記遠距離視覚部分と近距離視覚部分との間に配置されたプログレッシブゾーンとを有し、
レンズの作用は、アディションとして既知の値により基本ラインに沿って、遠距離基準点での値から近距離基準点の値へ上昇する形式のプログレッシブレンズにおいて、
・ベクトル非点収差A→の拡散の一般的最大値|divA→|がレンズの良好な視力ゾーンの外に、有利にはレンズの周辺エリアに配置されており、該良好な視力ゾーンでは、ベクトル非点収差の絶対値|A→|が0.6dptより小さく、および/または、
・ベクトル非点収差A→の回転の絶対値|rotA→|が、近距離視覚部分、遠距離視覚部分の双方又はその一方で、約0.25アディション/dpt・dpt/mmである|rotA→|maxの最大値を越えて上昇せず、
ベクトル非点収差A→の絶対値|A→|は、プログレッシブレンズの使用位置での非点収差の絶対値に比例するか、またはプログレッシブレンズの少なくとも１つのプログレッシブ表面の表面非点収差の絶対値に比例し、
ベクトル非点収差A→の方向は、プログレッシブレンズの使用位置での非点収差のシリンダ軸に比例するか、またはプログレッシブレンズの少なくとも１つのプログレッシブ表面の表面非点収差のシリンダ軸に比例することを特徴とするプログレッシブレンズ。
【請求項１４】
ベクトル非点収差A→の拡散の絶対値|divA→|の一般的最大値の位置のx座標が6.0mmより大きく、y座標が-8.5mmより小さく、ここでxは使用位置での水平軸、yは垂直軸であり、ゼロ点x=0,y=0はレンズの中心点より4mm下にあることを特徴とする請求項１３記載の非線形レンズ。
【請求項１５】
アディション≧2.0dptであるプログレッシブ表面すべてに対して、(0.1/mm)×アディションの値を越える、ベクトル非点収差A→の拡散の絶対値|divA→|のすべての極値が、レンズのy≧-9mmの領域の外にあることを特徴とする請求項１３または１４記載の非線形レンズ。
【請求項１６】
ベクトル非点収差A→の回転の絶対値|rotA→|がy=-14mmの水平区間で、約0.115アディション/dpt・dpt/mm、有利には約0.08アディション/dpt・dpt/mmである|rotA→|maxの最大値を越えないことを特徴とする請求項１３から１５までのいずれか１項記載の非線形レンズ。
【請求項１７】
ベクトル非点収差A→の回転の絶対値|rotA→|がy=+6mmの水平区間で、約0.115アディション/dpt・dpt/mm、有利には約0.06アディション/dpt・dpt/mmである|rotA→|maxの最大値を越えないことを特徴とする請求項１３から１６までのいずれか１項記載の非線形レンズ。
【請求項１８】
y=3mmとy=5mmの間の遠距離視覚部分では、y=一定の少なくとも1つの水平区間が存在し、該水平区間に沿ってベクトル非点収差A→の回転の絶対値|rotA→|が基本ラインから|x|=16mmの座標の外側に向かって単調に上昇することを特徴とする請求項１３から１７までのいずれか１項記載のプログレッシブレンズ。
【請求項１９】
ベクトル非点収差A→の拡散divA→がy=0mmの水平区間では、約(0.11アディション/dpt+0.03)dpt/mm、有利には約(0.08アディション/dpt+0.03)dpt/mmである(divA→)maxの最大値を越えないことを特徴とする請求項１３から１７までのいずれか１項記載の非線形レンズ。
【請求項２０】
ベクトル非点収差A→の拡散divA→がy=0mmの水平区間では、約(-0.07アディション/dpt

-0.11)dpt/mm、有利には約(-0.05アディション/dpt-0.08)dpt/mmである(divA→)minの最小値を下回らないことを特徴とする請求項１３から１９までのいずれか１項記載の非線形レンズ。

【請求項２１】

ベクトル非点収差A→の拡散divA→がy=-14mmの水平区間では、約(0.12アディション/dpt+0.06)dpt/mmである(divA→)maxの最大値を越えないことを特徴とする請求項１３から２０までのいずれか１項記載の非線形レンズ。

【請求項２２】

ベクトル非点収差A→の拡散divA→がy=-14mmの水平区間では、約(-0.13アディション/dpt-0.05)dpt/mmである(divA→)minの最小値を下回らないことを特徴とする請求項１３から２１までのいずれか１項記載の非線形レンズ。